九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Development and validation of a risk score for the prediction of cardiovascular disease in living donor kidney transplant recipients

植木, 研次

https://hdl.handle.net/2324/4495967

出版情報：Kyushu University, 2021, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

KYUSHU UNIVERSITY

（別紙様式２）

氏　　名	植木　研次
論　文　名	Development and validation of a risk score for the prediction of cardiovascular disease in living donor kidney transplant recipients
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　馬場園　明 副　査　　九州大学　　教授　　江藤　正俊 副　査　　九州大学　　教授　　二宮　利治

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

申請者らは、2006 年 1 月から 2012 年 12 月までに九州大学病院で生体腎移植を施行された 331 例の腎移植レシピエントを導出コホートとし Cox 比例ハザード回帰モデルを用いて後ろ向きに解析し、CVD 発症予測モデルとリスクスコアを作成した。c 統計量と Hosmer-Lemeshow 検定による判別能と較正を検証した。東京女子医科大学病院で生体腎移植を施行された 300 例を検証コホートとして、導出コホートと同様の統計手法を用いて外的妥当性を評価した。

導出コホートでは観察期間に 28 例(8.5%)が CVD を発症した。移植 12 カ月後のレシピエント年齢。CVD 既往、精尿病性腎症、 透析歴。血清アルブミン濃度、 尿蛋白が CVD 発症の重要な予測因子として抽出された。整数によるリスクスコアを作成し、その判別能(c 統計量 0.88)と較正(Hosmer-Lemeshow 検定 ρ =0.18)は良好であつた。 検証コホートでリスクスコアを適用し、同様の解析を行ったところ、判別能(c 統計量 0,7)と較正(Hosmer-Lemeshow 検定 ρ =.15)は良好であり、外的妥当性が示された。腎移植コホートを用いて作成された簡便な生体腎移植レシピエントの CVD リスクスコアの有用性が示された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、研究結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。